

## 施策4 のこす・いかす ～伝統の継承と活用～

### 1 基本的な考え方

当市には国の重要無形民俗文化財に指定された「八戸のえんぶり」や「八戸三社大祭の山車行事」のほか、高館駒踊、加賀美流騎馬打毬、鮫神楽や法霊神楽など、歴史ある祭や伝統芸能が地域に息づき、沢山の市民の関わりのなかで大切に維持、継承されてきました。

また、南部菱刺しや南部裂織などの伝統工芸、八戸せんべい汁やそばかけなどの食文化、方言である南部弁など、南部地域の特徴的な生活文化が受け継がれてきました。

さらには、「合掌土偶」「赤糸威鎧（あかいとおどしよろい）」「白糸威褌取鎧（しろいとおどしつまどりよろい）」など、3件の国宝を始めとした文化財も多数存在するほか、今般、国史跡「是川石器時代遺跡」が、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界遺産に登録される運びとなりました。

これら過去から伝わる伝統的な文化芸術は、アイデンティティの源泉にもなる言わば「市民の宝」であり、これを大切に受け継ぎながら、未来に向けた新たな価値を追求し、市民や観光客へのわかりやすい発信や体験の機会をつくり、活用していくことを通して、次代に継承していきます。

### 2 取組方針

#### (1) 世界遺産・是川石器時代遺跡の適切な保存と価値の伝達

「是川石器時代遺跡」は、大正時代から発掘調査が始まり、特に泉山岩次郎・斐次郎兄弟の発掘では、貴重な木製品や漆製品が良好な状態で出土するなど重要な発見が相次ぎました。その後、保存が図られ、昭和32（1957）年には国史跡に指定され、昭和37（1962）年には漆製品など出土品633点が重要文化財に指定されました。

平成6（1994）年には縄文学習館を整備し、縄文時代のものづくり技術を学ぶ体験学習にも取り組み、さらに市民の関心が高まる中、ボランティアガイドを行う市民スタッフが誕生し、その活躍により現在まで児童・生徒への質の高い学習の提供や、市内外からの観光ニーズにも対応してきました。

## 施策4 のこす・いかす ～伝統の継承と活用～

### 1 基本的な考え方

当市には国の重要無形民俗文化財に指定された「八戸のえんぶり」や「八戸三社大祭の山車行事」のほか、高館駒踊、加賀美流騎馬打毬、鮫神楽や法霊神楽など、歴史ある祭や伝統芸能が地域に息づき、沢山の市民の関わりのなかで大切に維持、継続されてきました。

また、南部菱刺しや南部裂織などの伝統工芸、八戸せんべい汁やそばかけなどの食文化、方言である南部弁など、南部地域の特徴的な生活文化が受け継がれてきました。

さらには、「合掌土偶」「赤糸威鎧（あかいとおどしよろい）」「白糸威褌取鎧（しろいとおどしつまどりよろい）」など、3件の国宝を始めとした文化財も多数存在するほか、今般、国史跡「是川石器時代遺跡」が、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界遺産に登録される運びとなりました。

これら過去から伝わる伝統的な文化芸術は、アイデンティティの源泉にもなる言わば「市民の宝」であり、これを大切に受け継ぎながら、未来に向けた新たな価値を追求し活用していくことを通して、次代に継承していきます。

### 2 取組方針

#### (1) 世界遺産・是川石器時代遺跡の適切な保存と価値の伝達

「是川石器時代遺跡」は、大正時代から発掘調査が始まり、特に泉山岩次郎・斐次郎兄弟の発掘では、貴重な木製品や漆製品が良好な状態で出土するなど重要な発見が相次ぎました。その後、保存が図られ、昭和32（1957）年には国史跡に指定され、昭和37（1962）年には漆製品など出土品633点が重要文化財に指定されました。

平成6（1994）年には縄文学習館を整備し、縄文時代のものづくり技術を学ぶ体験学習にも取り組み、さらに市民の関心が高まる中、ボランティアガイドを行う市民スタッフが誕生し、その活躍により現在まで児童・生徒への質の高い学習の提供や、市内外からの観光ニーズにも対応してきました。